

子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト (6) —コンピテンスの発達に影響を及ぼす養育態度ときょうだい環境—

○ 眞榮城和美 (清泉女学院大学)
前川浩子 (金沢学院大学)
上長 然 (佐賀大学)
酒井 厚 (山梨大学)

梅崎高行 (甲南女子大学)
則定百合子 (和歌山大学)
田仲由佳 (神戸医療福祉大学)

【目的】近年、子どもの発達と家庭環境との関連について語る際、「きょうだい環境」を考慮した上で子どもの発達に影響を及ぼしている要因を実証的に検討する研究が行われるようになってきている (Anderson, Hetherington, Reiss and Howe, 1994, 眞榮城・前川・則定・酒井・上長・梅崎・田仲・酒井, 2013)。しかしながら、子どものコンピテンスの発達に影響を及ぼす親の養育態度について「きょうだい環境」に注目して取り組んでいる研究は未だに少ない。そこで本研究では、子どものコンピテンスの発達に影響を及ぼす「きょうだい環境」の中でも、特に、きょうだいそれぞれに向けられる親の養育態度として、「しつけ (ルール説明)」「放任 (子どもの自由にさせる)」「体罰 (手を挙げる)」に焦点を当て、子どものコンピテンスの発達との関連について検討することとした。

【方法】調査対象者および調査時期：子ども期の社会性の発達に関する縦断研究プロジェクト (酒井ら, 2012) に登録されている被験者の内、調査対象児 (以下 TC と表記) が Wave 1 (以下 W1 と表記) : 3 歳時点と Wave2 (以下 W2 と表記) : 4 歳時点の 2 時点の調査に参加した 184 家庭 [TC : 男児 88 名・女児 96 名, TC より年長のきょうだい (以下 Sib と表記) : 男児 39 名・女児 24 名, 平均年齢 5.94 歳 ($SD=1.36$), 母親 : 平均年齢 35.66 歳 ($SD=4.37$)] を本研究の分析対象とした。調査時期は 2011 年 12 月～2014 年 3 月であった。

調査方法：対象児の年齢に合わせて質問紙調査票を郵送し回答を求める形式で実施した。TC に年長のきょうだいが居る場合にはきょうだいに関する質問紙も同時に郵送し回答を求めた。

調査内容：

① 子どものコンピテンス：Harter&Pike (1984) の日本版「自己有能感と社会的受容感測定尺度 (親評定用)」 (眞榮城, 2011) を用い、子どものコンピテンス (12 項目) について測定した。評定方法は「あてはまる」から「あてはまらない」までの 4 件法であった。② 親の養育態度：親のしつけ (ルールなどについて説明する態度)・放任・体罰について測定可能な尺度：Harsh, Firm and Permissive Parenting (Shumow, Vandell, Posner, 1998) 10 項目を翻訳して使用した。評定方法は「全く違う」から「全くそのとおりだ」までの 4 件法であった。

【結果と考察】分析には SPSS22.0 を用いた。

① コンピテンスの発達の变化について検討するため W1 と W2 の双方に回答した男児 80 名・女児 93 名を対象とし、対応のある t 検定を行った。その結果、男女ともに W1 (3 歳時点) よりも W2 (4 歳時点) においてコンピテンスが高くなっていることが確認された (Table1 参照)。つまり、この時期のコンピテンスの発達には年齢要因 (実際にできることが増える等の要因) が大きくかかわっていることが確認された結果であると考えられる。

Table1 コンピテンスの発達の变化 (対応のある t 検定)

	W1 (3歳)		W2 (4歳)			
性別	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>t</i>	<i>df</i>
男児	2.52	.45	2.92	.44	-10.12	80 ***
女児	2.83	.50	3.21	.42	-9.20	93 ***

*** $p<.001$

② コンピテンスと親の養育態度との関連について TC・Sib 別に W1/W2 における相関分析を行った結果、TC・Sib どちらも「しつけ」とコンピテンスとの間に有意な正の相関が認められた (Table2 参照)。次に、親の「しつけ」がコンピテンスの発達に及ぼす影響について「きょうだい環境」を考慮した偏相関分析を行った。結果、TC では W2「コンピテンス」と W2「しつけ」、Sib では W2「コンピテンス」と TC・Sib の W1/W2「しつけ」の間に正の相関が認められた (Table3 参照)。W1/W2 の親から TC への「しつけ」が W2 の Sib「コンピテンス」に影響を及ぼしていたことは、親の養育態度がきょうだいそれぞれに対して一貫しており公平性が保たれていることが、子どものコンピテンスを高める可能性を実証した結果であると考えられる。

Table2 コンピテンスと親の養育態度との関連

	コンピテンス			
	TC		Sib	
	W1 (3歳)	W2 (4歳)	W1 (6歳)	W2 (7歳)
しつけ	.29**	.28**	.21*	.29*
放任	-.07	-.03	.03	.20
体罰	-.03	.04	-.04	.01

** $p<.01$, * $p<.05$

Table3 コンピテンスの発達と親の養育態度との関連 (偏相関)

制御変数	親の養育態度	コンピテンス	
		TC	Sib
		W1	W2
コンピテンス	親⇒TC しつけ	.16	.25 +
	親⇒TC しつけ	.36 **	.31 *
	親⇒Sib しつけ	.14	.23 +
	親⇒Sib しつけ	.17	.42 ***

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

*W1 調査時の各コンピテンスを制御変数として投入